

# 長谷川治郎兵衛家に残る「鯰絵」

なま



三職よろこび餅 (長谷川治郎兵衛家旧蔵)

江戸時代、鯰は地震の元凶と信じられていました。そのような中で、安政2(1855)年に発生した安政江戸地震の直後には鯰を題材にした「鯰絵」と称される約200種類以上の多彩な摺り物が制作されました。こうした鯰絵には、地震への恐怖心や風刺などが描かれており、当時の人々の地震に対する考え方がうかがえます。今回は、長谷川治郎兵衛家旧蔵の鯰絵をご紹介します。

長谷川家に残る「三職よろこび餅」と題する鯰絵には、餅をつく大工、左官と、餅を食べる鯰が描かれています。では、何をしている場面なのでしょうか？絵の上部に記された職人のセリフに「なまづさんおめいのおかげで今年ア久しふりでたわらで米をかつて餅をつきやしたからたんとおがってくたせいや」とあるように、地震後の復興による仕事の増加で、米を俵で買えるほど儲けた職人たちが、お礼として地震を起こした鯰に餅を振る舞っている場面であることがわかります。地震は多くの被害を及ぼす一方で、恩恵も与えたということユーモラスに風刺しています。

旧長谷川治郎兵衛家の企画展「商家長谷川家と災い」では、「三職よろこび餅」も展示していますので、是非ご来館ください。(学芸員 扇野)

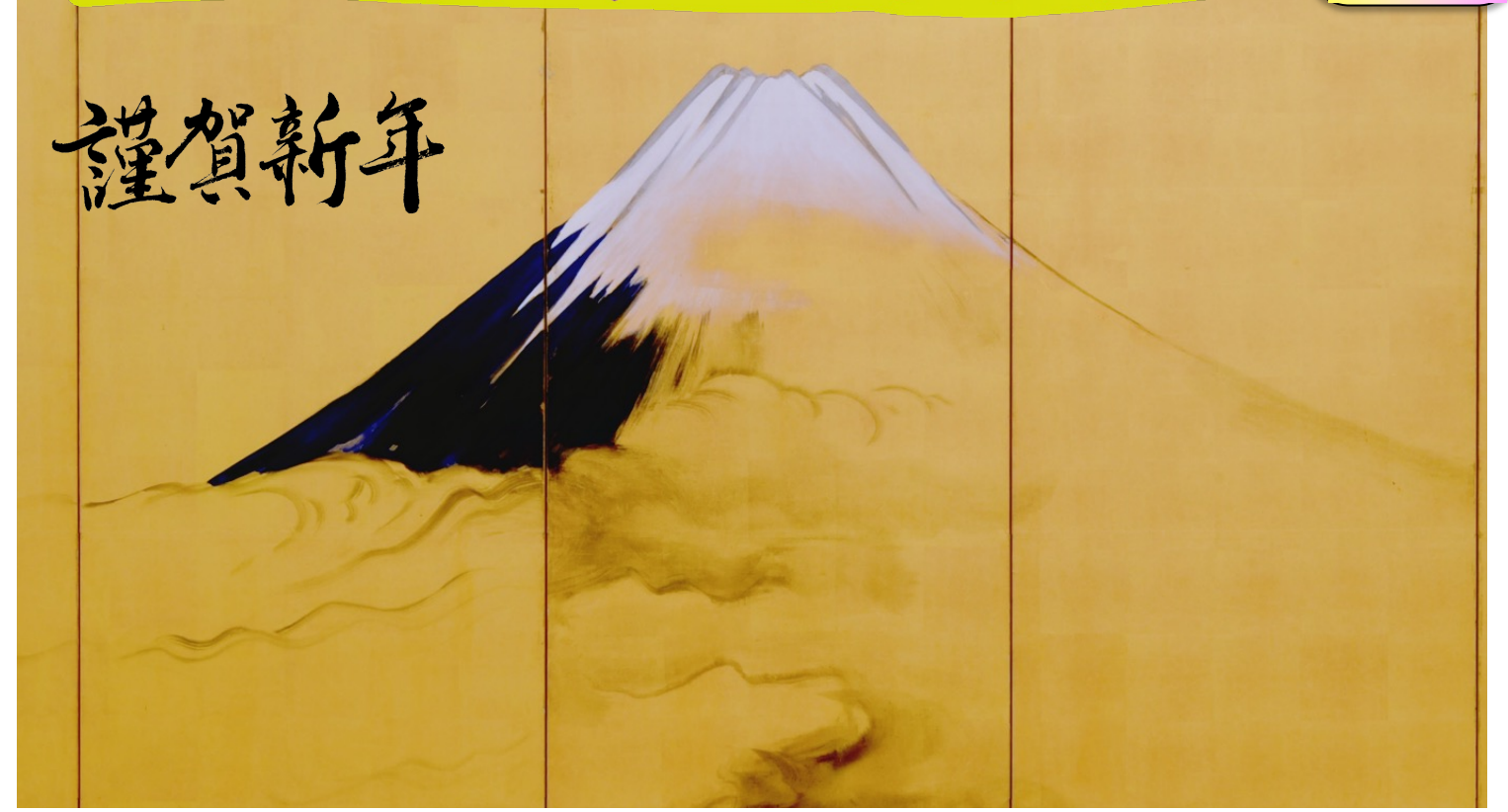
参考文献：国立歴史民俗博物館編『鯰絵のイメージネーション』(国立歴史民俗博物館、2021年)

## 歴史文化3施設のご案内

【開館時間】  
9:00~17:00 (16:30までにご入館ください)  
【休館日】  
水曜日(祝日の場合は翌平日) / 年末・年始

発行 NPO法人松阪歴史文化舎  
〒515-0082 松阪市魚町1653  
Phone: 0598-21-8600 (事務所)  
E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com  
HP https://matsusaka-rekibun.com/

【連絡先】  
◆旧長谷川治郎兵衛家  
Phone: 0598-21-8600  
◆旧小津清左衛門家  
Phone: 0598-21-4331  
◆原田二郎旧宅  
Phone: 0598-23-1656



富士旭日図屏風(部分) 川端玉章 画

本年の干支は、十二支の中で5番目の「辰(=竜)」です。十二支とは、古代の中国で方角や暦を表すために用いた12の漢字をさし、それぞれ12の動物に当てはめたそうです。

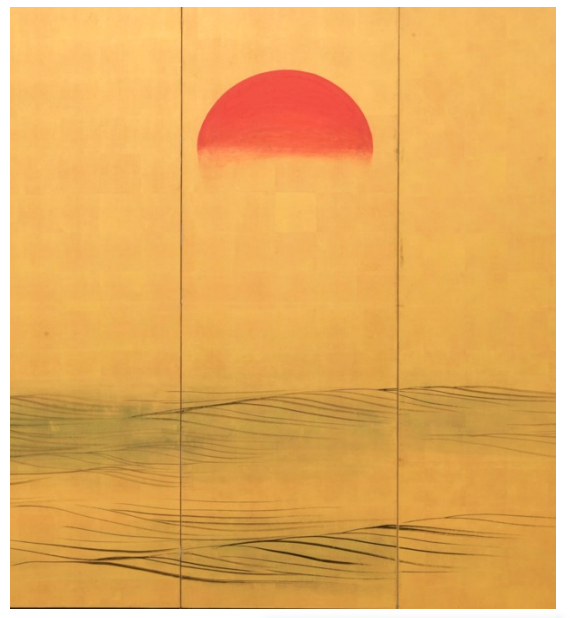
この十二支の思想は、アジア圏に広まるにつれ、チベットやタイでは「卯(ウサギ)」の代わりにネコが入ったり、モンゴルでは「寅(トラ)」の代わりにヒョウが入っていたりして、地域によって異なるバリエーションが生まれました。

十二支にまつわる物語としては、神様が動物たちを競わせ、到着した順番が十二支の順になった……というものがありますが、なぜその中に空想の動物である「竜」が入っているのでしょうか。

実は中国では「竜」は、空想の動物ではなく実在する動物だと信じられていました。中国各地で発掘された太古の恐竜の化石や、黄河や長江などの巨大な河川に数多く生息していたワニなどのイメージからそう考えられたのでしょうか。

そして「竜」は、天へ向かって高く上昇するものの象徴でもあります。

私たちNPO法人松阪歴史文化舎も新年を迎えるに際し、皆様とともに歩む中で、この竜にあやかって空想ではなく実際に飛躍の年になることを目指して努力していきたいと存じます。本年もよろしくお願いたします。



富士旭日図屏風(部分)

ちなみに竜が実在していないと判っていたら僕たちネコが十二支に入っていたかも知れないんだ!



# 今回の展示のみどころ!

**旧長谷川治郎兵衛家 商家長谷川家と災い** 令和6年1月9日(火)～4月7日(日)

木綿商 長谷川治郎兵衛家は延宝3年(1675)に創業して以来、地震や火災といった災害を幾度となく乗り越えてきました。そこで本企画展では、自然災害を中心とした「災い」に対して長谷川家がどのように向き合ったのか、江戸時代の古文書や生活道具などから迫ります。

【学芸員による展示解説】 2/10(土) 3/2(土) 11時より20分程度

【火用心札木版印刷体験】 2/11(日) 3/31(日) 10時～15時

創業以来、火難から免れてきた長谷川家に伝わるご利益のある「火用心」のお札を掲げませんか? /参加費: 入館料のみ



【版木「火用心」】  
文政13年(1830)

長谷川家に伝わる火難予防のお札を掲げるための版木で、長谷川家の奉公人は、毎年お札を掲げ、屋敷内の各所に張ることで火難予防を徹底した

火用心

## 旧小津清左衛門家

### 松阪商人と茶の湯

～令和6年2月4日(日)

松阪城下に居住する小津清左衛門や長谷川治郎兵衛といった江戸店持ちの商人たちは、日常的に茶の湯を楽しみました。本企画展では、小津家や長谷川家を中心とした商家伝来の茶会記、茶道具などを展示し、商人たちの茶の湯文化をご紹介します。



【松阪万古和歌入り茶碗】  
昭和初期

松阪市本町の素封家小津茂右衛門勝久(笹川庵)揮毫の松阪万古の茶碗

【学芸員による展示解説】 1/13(土) 11時より20分程度

### 商家に伝わる女性の道具展

令和6年2月6日(火)～5月12日(日)



はなだじつちもよううちかけ  
【縹地鶴模様打掛】  
明治43年(1910)

小津家14代長謹の妻民の婚礼衣装で、縹地に飛翔する鶴を散らした華やかなもの

【学芸員による展示解説】 2/24(土) 4/13(土) 11時より20分程度

嫁入り道具から江戸時代に刊行された女性用の教訓書まで、小津清左衛門家や長谷川治郎兵衛家といった松阪商人の家々に伝わる女性たちの道具などを展示します。商家の女性たちが使った華やかな道具の品々を堪能していただける内容となっています。

**原田二郎旧宅** おふれ 御触から見る江戸時代の松阪 令和6年4月21日(日)

江戸時代、紀州藩から様々な御触が松阪領内へ伝達されました。本企画展では、御触を書き留めた記録「御用留」や、掟書や禁制などを記し、町の要所に掲示されていた「高札」などから江戸時代の町の様子を読み解いていきます。



【学芸員による展示解説】  
1/27(土)、3/30(土) 各日11時より15分程度

【六軒茶屋之図】 明治初期  
伊勢街道の宿場町として賑わう六軒茶屋の様子が描かれており、三渡橋の側には「高札場」が確認できる

## おしらせ

### ◆糸紡ぎ体験 一綿から布へ

綿繰り、綿打ち、糸紡ぎ、そして紡いだ糸を使ったコースター織りまでの、綿が布になる過程を体験します。  
日時: 1月28日(日)10時～12時  
場所: 旧小津清左衛門家 向座敷  
定員: 10名程度  
参加費: 500円  
お申込: 右のQRコードから(電話可也)



### ◆ペーパーウェイトづくり

松阪もめん柄の和紙を自然石に貼ってオリジナルペーパーウェイトを作ってみませんか。  
日時: 3月3日(日)13時～15時  
場所: 旧小津清左衛門家 向座敷  
定員: 20名  
参加費: 300円  
お申込: 右のQRコードから(電話可也)



### ◆特別展示 ちょっと昔のお雛さま

旧家の静かなたたずまいと華やかなお雛様。どうぞゆったりおくつろぎください!  
日時: 2月10日(土)～3月3日(日)  
場所: 旧長谷川治郎兵衛家  
旧小津清左衛門家  
原田二郎旧宅



### ◆旧家で聴こう春の朗読

「松阪お話しキャラバン」さんによる朗読会も4回目となります。芥川龍之介、向田邦子等の作品を紙芝居や朗読でお楽しみください。  
日時: 2月25日(日) 13時30分～  
場所: 旧小津清左衛門家 向座敷  
※入館料のみ必要



### ◆松阪の一夜 Night Museum Special viewing

旧長谷川治郎兵衛家の庭園や蔵の色とりどりのライトアップと原田二郎旧宅の和を基調とした「竹あかり」の幻想的なアートをご覧ください。

日時: 2月1日(木)～4日(日) 17:00～21:00  
場所: 旧長谷川治郎兵衛家、原田二郎旧宅  
特別観覧券: 一般800円 18歳以下400円 5歳以下 無料  
(旧長谷川治郎兵衛家、原田二郎旧宅、松坂城跡、鈴屋、本居宣長記念館、松阪市立歴史民俗資料館 共通)



【主催】松阪冬の滞在型コンテンツ磨き上げ事業実行委員会 【お問い合わせ】運営事務局(株式会社カブク内) TEL 050-1808-5035